



週報

Rotary
OITA JOSAI,2720会長 山本真一
幹事 吉岡尚美国際ロータリー会長
フランчесコ・アレツツォ
第 2720 地区ガバナー
藤田 千由
大分第 4G ガバナー補佐
森永 隆二みんなのために
手を取りあおう地区スローガン
みんなでつなぐ、育てる、
ロータリー・リレーションシップ大分城西ロータリークラブ
クラブ スローガン 「つながろう、クラブの未来のために！」

<四つのテスト> 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

出席報告	7月16日					例会日	水曜日 12:30～13:30		編集担当	7月	眞上 晋
	会員総数	出席者数	出席率	ゲスト	ビジター	例会場	ホテル日航大分アピスタワー			8月	高木昭信
	28名	23名	85.19%	3名	2名	ホ-ムペ-ジ*	http://oitajosairotaryclub.com			9月	衛藤祐介

例会日 水曜日 12:30~13:30

例会場 ホテル日航大分アストア

ホームページ <http://oitajosairotaryclub.com>

事務局 〒870-0021 大分市府内町キハ会館 4 階 TEL 097-532-0611 FAX 097-532-8386 Eメール oitajosairc@mist.ocn.ne.jp

2025-2026

第 4 回例会

7月30日

No.1599

母子の健康月間

◆本日のプログラム

12:30	点鐘
	ロータリーソング「四つのテスト」
	ゲスト・ビジターの紹介 山本真一 会長
	会長の時間 山本真一 会長
	出席報告及び幹事報告 吉岡尚美 幹事
	ロータリー情報 R 情報担当委員
	委員会報告 各 委 員 会
	スマイルボックス 会 員 各 自
13:00	岩田和久会員の卓話
	「九州ロードレース選手権による、 地域経済に与える影響と、 これからのレース業界！」

◆今後の例会予定

●8月6日	堤峻次様(ARMORs代表取締役)の卓話
●8月13日	定款第7条第1節に基づき例会取りやめ
●8月20日	未定
●8月27日	親睦夜例会
●9月3日	職場例会(諏訪の杜病院)

◆職業奉仕3分スピーチ

伊藤秀海会員
(今後の予定)
8/20 中山会員
9/10 石橋会員

◆今週のお祝い (7月30日)

●創立記念日

廣瀬舜一会員 (株)ヒロセ地所 S53年8月1日(47年)

◆ゲスト・ビジターの紹介 (7月16日)

- ゲスト 首藤明子 様(50S 合同会社 代表執行役員)
- 金谷英津子 様(一般社団法人 e-blossom 理事長)
- エリシモ, シャレン グラシエラ さん(米山奨学生)
- ビジター 橋本仁 様(大分 RC)
- 薬師寺喜和郎 様(2720JapanO.K.REC)

◆幹事報告（7月16日）

幹事 吉岡尚美

・国際ロータリー第2720地区より、ガバナーノミニー・デジグネート(2028～29年度ガバナー)の候補者推薦についての文書が来ております。本日回覧しております。

・大分1985RCより、東北大学教授の講演会のご案内が届いております。

日時:2025年8月29日(金)18時～19時 場所:トキハ会館6階 さくらの間

講師:東北大学大学院医工学研究科 教授 新妻邦泰氏

演題:「脳を救う最前線～再生医療や創薬の可能性～」

対象:ロータリアン、ご家族(各クラブ2名程度) 参加費:無料 定員:60名

申込み締切:2025年8月8日(金)

・7/19(土)～7/20(日)は米山夏季セミナー、7/26(土)はクラブ活性化ワークショップです。参加予定の方はよろしくお願い致します。

・次週7/23(水)は定款第7条第1節に基づき例会取りやめ。次回は7/30(水)、お間違えないようご確認を。

・本日請求書をボックスに入れておりましたので、ご確認ください。



◆スマイルボックス（7月16日）

河野浩二会員

(5口)

先週の9日は、例会をお休みしたのですが、今までの建築関連団体での役員活動や設計業務の功績が認められて、霞が関の国交省に出向いて国土交通大臣賞を頂きました。これを励みに益々精進していきたいと思います。また、今週は弊社の創立記念日と、家内の誕生日もあり、嬉しさ倍増です。5口致します。



◆R情報（7月16日）

工藤隆 会員

「ロータリー“奉仕概念”の誕生の物語」

1905年2月23日、ポール・ハリスは、最初の会合で一つの職種から1人だけ会員を選ぶという「一業一会員制の原則」を決め、次いで、3月23日、シカゴ・クラブの創立総会において、「規則的例会出席の原則」を採択しました。

ところが1906年春、ドナルド・カーターの物語が起こりました。まず、クラブへの入会を勧誘された弁理士のDonald Carterは、クラブの互惠主義の説明を聞いて、

『君達はお互いに助け合って、豊かになって楽しいだろう。しかし、一業一会員制の原則であれ

ば、クラブに入れない同業者は一体どうなるのか。また、職業人の集まりであれば、職業を持たない一般地域社会の人達は一体どうなるのか。私達は、この地域社会に生まれ、地域社会に育てられ、地域社会にお世話になって暮らしている。このお世話になった地域社会に何らの恩返しもしない。何らの足跡も残さないで、自分達だけが助け合って隆々と栄えて、やがてこの世を去っていく。そのようなエゴイズムの団体は永続性がないだろう。自分は、二度とない人生を、そのようなエゴイズムの世界におくことはできない』

と言って入会を断ったのであります。これを聞いて、痛く反省したのがポール・ハリスでありました。『Carterの言うとおりだ。クラブの行き方を変えよう』と言って、職業人の親睦のエネルギーを世のため人のために使おうと考えるに至ったのであります。



地域社会のリーダー的メンバーによって構成されるロータリーには、高い道徳性と社会的責任が求められる。

危機管理が問われている現代社会において、国際ロータリー第2720地区は、ロータリーの活動に関連して起こりうる危機に対し、率先してその社会的責任を全うする必要があるとの認識に基づき、ここにガバナー統括の下、第三者委員を含む危機管理委員会を設置し、ロータリーの信頼を高めることとする。（国際ロータリー第2720地区危機管理総則の序文より）

ロータリークラブの危機管理について、国際ロータリー第2720地区危機管理総則、国際ロータリー第2720地区危機管理委員会規定の資料をもとに説明。



◆委員会報告（7月16日）

・国際奉仕委員会 武居光雄 会員

ウクライナについて…ウクライナの副大臣と話す機会を得た。平穏な市民の生活を守るため、ミサイル空爆時のコンクリートシェルターの建設が急務となっている。

ケニアについて…明日からケニア。現地で具体的な支援の方法を探りたい。



◆ゲスト、ビジターから一言

・金谷英津子 様（一般社団法人 e-blossom 理事長）

子育てママを中心とした、女性が輝けるいろいろなコンテンツをご紹介するプラットフォームとして「e-blossom」を運営しています。「社会に笑顔の循環を！」を理念に活動が続けています。



・エリシモ, シャレン グラシエラ さん（米山奨学生）

先日、KOMPAS.com というインドネシアのウェブメディアの取材を受けました。祖国を離れて APU に入学してから 2 年半に頑張ってきたことを話しました。

（以下 KOMPAS.com の記事より）

最初は他国で勉強するのは簡単ではありませんでした。彼女は日常生活の習慣から始まり、自分の必要を管理し、自分で財政を管理し、新しい人々とつながりを築く必要がありました。「しかし、後になって気づいたのは、悲しみに浸りすぎることは何の変化ももたらさないということです。そこで、私は他のことに焦点を移し始めました。もっと真剣に学び、奨学金を追求し、アルバイトをするようにしました」

他の奨学金を探す いくつかの奨学金を得たにもかかわらず、シャレンはそこで止まらなかった。彼女は成長するための姿勢として機会を探し続けた。その過程には、すでに懸命に努力していると感じていても、失敗がついて回ることがある。

「その時、神に感謝します。私は APU のインドネシアの学生のためのハシヤ奨学金の唯一の候補者として成功しました」とシャレンは語った。残念ながら、彼女の闘いは書類選考の段階で止まってしまった。多くの準備に時間をかけたため、彼女は一時的に絶望しましたが、それを学びの機会として受け止めました。

そして、彼女の努力のおかげで、ついにロータリー米山奨学金を獲得することができました。この奨学金プログラムは、まず大学の内部選考を経る必要があるため、かなり厳格で長いプロセスです。「インタビューは非公開で完全に日本語で行われました。私は、8人のロータリー米山の幹部に一つの部屋でインタビューされたことを今でも覚えています」とシャレンは振り返った。

「私の親も指導してくれました。彼らは、最初の年には、私の日本語能力がまだ限られているため、シンプルな仕事から始めるべきだと勧めました。しかし、時間が経つにつれて、私のスキルの向上に応じて、私の仕事も発展していくべきだと彼らは注意を促してくれました」とシャレンは説明しました。

個人的なイニシアティブを持って、シャレンはもっと経験を積む必要があると感じました。結局、彼女は日本で 8 種類の仕事を体験しました。シャレンは、この経験が彼女の成長を助け、新しいスキルを磨くために役立つと信じています。最初はホテルの清掃員として始めました。その時、彼女はまだ適応中であつたため、あまり口頭コミュニケーションが必要ない仕事を選びました。今でも、彼女はキャンパス外でレストランのウェイトレスとしてパートタイムで働き続けています。

彼女の語学力の向上に伴い、3～11 歳の日本の子どもたちのための英語教師を任されています。キャンパス外だけでなく、シャレンは他の機関にキャンパスの環境を紹介するキャンパスアンバサダーとしても働いたことがあります。それだけ



でなく、彼女は英語のクラスと多文化協力ワークショップの助手(ティーチングアシスタント)としても働いたことがあります。

ティーチングアシスタントを経て、シャレンは現在、国際入学事務所の一環として大学でのインターンシッププログラムを実施しています。ここでは、国際学生の候補者向けにウェビナーを開催し、プロモーションコンテンツを作成しています。



・橋本仁 様(大分 RC)

アットホームで、タイムリーな内容の卓話をされている大分城西ロータリークラブの例会が好きです。日産の国内工場閉鎖は、暗いニュースではなく、工場の九州移転で、九州の経済には期待が持てるものだと思います。

・薬師寺喜和郎 様(2720JapanO.K.REC)

E クラブの例会では味わえない、face to face の例会を楽しんでいます。

◆卓話の時間 (7月16日) 首藤明子 様 (50S 合同会社 代表執行役員)

『1分の初動が生死を分ける ～熱中症対策の最前線～』

<p>1分の初動が生死を分ける ～熱中症対策の最前線～</p> <p>50S 合同会社 代表執行役員 首藤明子</p>	<p>熱中症＝経営リスク の時代</p>	<p>①気づく ②冷やす ③つなぐ</p> <p>この初動3ステップが、命を守る鍵です。</p>
<p>①気づく</p>  <p>「汗が止まる」 「急に話さない」 「ぼーっとしてる」</p>	<p>②冷やす</p> 	<p>③つなぐ 命のバトンを渡す</p> <p>医療機関へつなぐ</p>
<p>今日のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none">・1分でも早く異変に気づけるか・すぐに冷却できる備えがあるか・組織として命を守る体制があるか	<p>熱中症は、誰の身にも起こり得る命の危険。 だからこそ、企業がいち早く動く責任があります。 小さな備えが、かけがえない命を救う。 50Sは、その1歩を、御社と共に踏み出します。</p>	
		

50S合同会社では、防災の見える化を進めています。

- ・様々な道具や設備を すぐに使える状態に変える
- ・すぐそばに、命に備えるものがあるかどうか

・熱中症にならないためには、よく寝る、よく食べる、水を飲む(1時間毎)を実践してください。